

土月 sat.- mon.

## BankART 妻有桐山の家制作ツアー



「...前略。建物はだいぶんいたんでいる。普通の家をふつうの家のように改修していきたい。外にあるキッチンがあってもいい。お風呂を気持ちよい空間にしたい。外の風呂もあってほしい。ありとあらゆる部分をそのままにしておきたい。ありとあらゆる部分をアーティストにゆだねたい。表札や取っ手やまな板や茶碗、バケツ、石鹸、石鹸おき、こたつのふとん。枕、すだれ、カーテン、家具、コンロ…。誰が訪ねてきてくれる。野菜やアイスクリームやお風呂をあげたい。誰が訪ねてきても普通に過ごせる家になりたい。」

火 tue. 19:30-21:30

## 中村 恩恵

表現芸術としての舞踊活動を志す方へ

6/9、16、23、30、7/7、14、21、8/4



2ヶ月、8回の講座の中で参加者自身が創作を行う過程をリードさせて頂きます。創作の原動力となる内的動機は形なきものですが、直感と知の力をかりて具体的な表現としての形を見つけていく。その過程は内省的な作業であり個人的な体験です。しかし、あえて他者との関わりの中で創ることで、参加者同士が互いから示唆を受け、刺激し合い自分らしい、かつ自分を越えたものを生み出して欲しいと思います。

なかむらめぐみ：舞踊家。横浜生まれ。1991年から、ネザーランドダンスシアターで主要ダンサーとして踊った後、フリーの舞踊家として活動。また、キリアンのコーチとしてパリオペラ座をはじめ、世界中のパレエカンパニーなどで作品を指導している。2007年横浜にDance Sangaを設立。(現在、BankART Studio NYK内 Studio202で活動) Noism07の委嘱で「Walz」を発表。2008年舞踊批評家協会新人賞受賞。

水 wed. 19:30-21:30

## 小池 一子

ファッション考現学

6/10、17、24、7/1、8、15、22、29



アタマのてっぺんから足の爪先までを題材に考える。ジャンルといえば「ファッション」が身近ですが、ライフスタイル全般にも関わっていきます。考現学は、考古学と対照的に今の事象事物を記録し分析します。その方法論を楽しんでいる大田垣晴子さんをはじめ、ファッションの中で、また周辺で独自の仕事を切り開いている講師が参加。コンテンポラリー感覚について議論し、例証していきます。講師は他に、パトリック・ライアン、和井内京子、砂山国男、などクリエイティブな仕事の達人の参加を予定。

こいけかずこ：クリエイティブディレクター。東京生まれ。早稲田大学文学部卒業。「無印良品」創業以来アドバイザー・ボード。武蔵野美術大学名誉教授。1983年～2000年日本初のオルタナティブ・スペース「佐賀町エキジビット・スペース」創設・主宰。現代美術の新しい才能を国内外に送り出した。2004～2005年武蔵野美術大学 美術資料図書館、及び鹿児島県霧島アートの森「衣服の領域-On Conceptual Clothing:概念としての衣服」展ほか公私立の美術館への企画参加も多い。編著書に「三宅一生の発想と展開」「空間のアウラ」など。訳書「アイリオン・グレイ 建築家・デザイナー」他

木 thu. 19:30-21:30

## ヨコハマ都市住宅ラボ (全7回)

6/18、25、7/2、9、16、23、30



近い将来横浜に家を建てたいと考えている人のためのゼミ。すぐにでも家を建てたい人、どの土地を購入しようか迷っている人、エコ住宅に興味のある方、狭小な土地に何とか考えている人等々…。横浜をベースに活躍する一線の建築家と共に、真に建築的な視点から考え議論・交流していく場です。研究会ですので受講料は必要ありません。

参加予定建築家  
みかんぐみ、小泉雅生、櫻井 淳、佐々木龍郎、西田 司、城戸崎和佐、前田篤伸、川嶋貴介、高橋 寛、高橋晶子、安田博道、宮 晶子、白井崇雄 (白井組) 鈴木信弘、八島正年、柳沢 潤、マチデザイン、その他

金 fri. 19:30-21:30

## 五十嵐太郎 + 磯 達雄

現代建築を10倍楽しむ法 3

6/12、19、7/3、10、17、24、31、8/7



昨年、一昨年と開催し好評だったシリーズの続編。建築を見るのは面白い。その見方がわかるともっと面白い。この講座では、身近な現代建築を探り上げ、それを楽しむためのポイントを伝えると同時に、受講者とのディスカッションを通じて、建築を多角的にとらえる方法を身につけてもらいます。今回は産学を中心として、建築をより深く味わうための方法論を探ります。

いがらしろう：建築史、建築評論家。1967年パリ生まれ。東北大学准教授。主な著書に著書に『終わりの建築/始まりの建築-ポスト・ラディカリズムの建築と言説』(INAX出版)、『現代建築に関する16章』(講談社) などがある。いそたつお：建築ジャーナリスト。1963年埼玉県生まれ。1988～99年「日経アーキテクチュア」編集部、2000年～ブリックスタジオ共同主宰。共著に「昭和モダン建築巡礼」(日経BP社) などがある。

月 mon. 19:30-21:30

## 飯沢耕太郎

写真ポートフォリオを作る

8/3、10、24、31、9/7(日吉)、14(日吉)、21、10/12



© Emi Anrakuji

自分の作品をギャラリーや編集者にプレゼンテーションしたり、公募展に応募したりするためにはポートフォリオ(作品ファイル)が必要になります。それをどう作ればいいのか、そもそも写真を作品としてまとめるにはどうすればいいのか、実際にプレゼンテーションと講評を積み重ねることで学んでいきます。最終的な目標としては、個展、あるいは写真集の制作をめざします。

いざわこうたろう：写真評論家。1954年宮城県生まれ。77年日本大学芸術学部写真学科卒業。84年筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。以後、フリーの写真評論家として活動する。主な著書には『「芸術写真」とその時代』(筑摩書房)、『日本写真史を歩く』(新潮社)、『荒木!』(白水社)、『フォトグラフィアーズ』(作品社)、『写真美術館へようこそ』(講談社)、『写真を愉しむ』(岩波新書) など。1990-94年、写真誌「deja-vu」編集長も務めた。

火 tue. 19:30-21:30

## 英語でおこなう世界創造都市会議

8/11、18、25、9/1、8、15、22、29



2009年9月に横浜市が開催する横浜クリエイティブシティ国際会議2009プログラム関連の企画。創造都市に関する内容をレクチャー & 解説(テキスト付き)します。「英語でアート」のシリーズ第4弾。基本は英語ですが、日本語も織り交ぜながら楽しくゼミは進行します。英語が得意な方もそうでない方もOK!

講師  
ロジャー・マクドナルド (AIT)  
吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所)  
帆足亜紀 (アートコーディネーター)  
難波祐子 (東京都現代美術館)  
満端俊夫 (BankART1929)  
湯浅真奈美 (ブリティッシュ・カウンシル)

水 wed. 19:30-21:30

## 福住 廉

アートの綴り方 4

8/5、12、19、26、9/2、9、16、23



アートを「見る」だけではもったいない! せっかくだから「考える」、「聞く」、「話す」、そして「書く」ことへとつながりましょう。この講座では、展覧会ツアー、アーティスト取材、感想文の執筆、意見交換などを繰り返すことで、アートの楽しみ方をよりいっそう深めたいと思います。感想文はすべて添削してお返しします。講座の終了後、フリーペーパー「HAMArt!」を制作する予定です。

ふくずみれん：美術評論家。1975年東京生まれ。美術出版社主催第12回芸術評論で佳作受賞。『美術手帖』『artscape』『共同通信』などに寄稿する一方、東京のギャラリーマキで連続企画展「21世紀の限界芸術」のキュレーションも手掛ける。著書に『今日の限界芸術』(BankART1929)、共著に『フィールド・キャラバン計画へ』(水声社)、『ビエンナーレの現在』(青弓社)『道の手帖 鶴見俊輔』(河出書房新社)『なぜ広島の空をピカッとさせてはいけないのか』(無人島プロダクション) など。

木 thu. 19:30-21:30

## 住友文彦

映像を使った表現の現在

8/6、13、20、27、9/3、10、17、24



映像表現は分野ではなく、誰もが扱うことができるツールになりました。ヨコハマ国際映像祭2009は私たちがどう映像を作り出し、伝達し、受け止めているかをアート作品にとどまらず幅広く考えていくことをテーマにしています。見どころだけではなく、作品の紹介や、実施プロジェクトに参加する回数などもつくりたいと思っています。

8/6 映像祭のコンセプト 8/13 映像表現の現在、作品紹介 8/20 市民メディア(ゲスト) 8/27 都市と映像 (GRL,ゲスト) 9/3 上映作品紹介(ゲスト) 9/10 映像フィールドワーク(ゲスト) 9/17 コンペ作品上映 9/24 まとめ

すみともふみこ：ヨコハマ国際映像祭2009ディレクター。NPO法人アーツユニシアティヴトウキョウ(AIT) 副理事。NTTインターコミュニケーションセンター (ICC)、東京都現代美術館などの学芸員として展覧会を企画、また日本の現代美術を海外へ紹介する企画にも関わる。主な共著に、「キュレーターになる!」(フィルムアート社、2009年) などがある。

金 fri. 19:30-21:30

## 大野慶人

肉体の迷宮

8/7、14、21、28、9/4、11、18、25



土方巽、大野一雄を間近で見てきた自身の経験をもとに、2人の基礎となったものを、それぞれが歩んできた道を訪ねながらお伝えしたい。立つこと、歩くこと、走ること、よじることは。そしてダンスをすることは。これらを学ぶ時間としたい。

おおのよしと：1938年東京生まれ。'59年、土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。以後、アルト一館、暗黒舞踏派公演に参加。'85年「死海」で大野一雄と共演。'86年以降は大野一雄の全作品を演出。1998年、郡司正勝氏の遺稿を基に自身のソロ作品「ドリアン・グレイの最後の肖像」を上演。現在、国内外で公演活動を続ける。大野一雄舞踏研究所所長。著書に「大野一雄魂の糧」(フィルムアート社)。

土月 sat.- mon.

## BankART 妻有桐山の家制作ツアー

(土曜日から日曜日 or 月曜日)

6/6-8、13-15、20-22、27-29、7/4-6、11-13、18-20、25-27



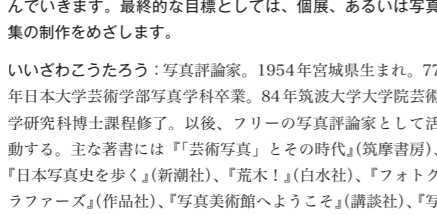
BankART1929は「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2006」の空き家プロジェクトのひとつとして松代の桐山に民家を入手し、みかんぐみ、神奈川大学曾我部研究室等とともに改修工事を進め、公開しました。またその後も少しずつですが、アーティストが、ドアノブ、呼び鈴、建具、家具、作品など、建物のエレメントを中心に、家造りに参加してくれています。今年、「アートトリエンナーレ2009」開催(7.26～9.13)にともない、再びこの「BankART 妻有」を公開しますので、その為の準備を進めています。毎週末～週頭、BankART スタッフと参加作家が現地向かいます。アーティストと生活をともにしながら、建築・インテリア・調度品・コレクションなどを制作・設置していくプロジェクトに参加できる方を募ります。スクールの形式をとりますが、受講料・食費・交通費は無料です。単発でももちろん結構です。基本的には土曜早朝出発、日曜日の夜または月曜日戻り。参加予定作家は、田中信太郎、原口典之、牛島達治、吉川陽一郎、かわしまかんすけ、磯崎道佳、丸山純子、村田 真、開発好明、白井美穂、中原浩大、淺井裕介、村田峰紀、松本秋則、ヤング荘、高橋永二郎、野老朝雄、和田みつと、東野哲史、PHスタジオ、その他多数

月 mon. 19:30-21:30

## 飯沢耕太郎

写真ポートフォリオを作る

8/3、10、24、31、9/7(日吉)、14(日吉)、21、10/12



© Emi Anrakuji

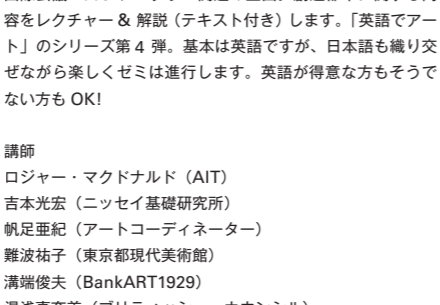
自分の作品をギャラリーや編集者にプレゼンテーションしたり、公募展に応募したりするためにはポートフォリオ(作品ファイル)が必要になります。それをどう作ればいいのか、そもそも写真を作品としてまとめるにはどうすればいいのか、実際にプレゼンテーションと講評を積み重ねることで学んでいきます。最終的な目標としては、個展、あるいは写真集の制作をめざします。

いざわこうたろう：写真評論家。1954年宮城県生まれ。77年日本大学芸術学部写真学科卒業。84年筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。以後、フリーの写真評論家として活動する。主な著書には『「芸術写真」とその時代』(筑摩書房)、『日本写真史を歩く』(新潮社)、『荒木!』(白水社)、『フォトグラフィアーズ』(作品社)、『写真美術館へようこそ』(講談社)、『写真を愉しむ』(岩波新書) など。1990-94年、写真誌「deja-vu」編集長も務めた。

火 tue. 19:30-21:30

## 英語でおこなう世界創造都市会議

8/11、18、25、9/1、8、15、22、29



2009年9月に横浜市が開催する横浜クリエイティブシティ国際会議2009プログラム関連の企画。創造都市に関する内容をレクチャー & 解説(テキスト付き)します。「英語でアート」のシリーズ第4弾。基本は英語ですが、日本語も織り交ぜながら楽しくゼミは進行します。英語が得意な方もそうでない方もOK!

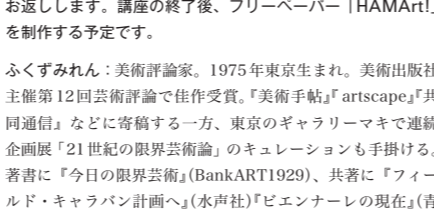
講師  
ロジャー・マクドナルド (AIT)  
吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所)  
帆足亜紀 (アートコーディネーター)  
難波祐子 (東京都現代美術館)  
満端俊夫 (BankART1929)  
湯浅真奈美 (ブリティッシュ・カウンシル)

水 wed. 19:30-21:30

## 福住 廉

アートの綴り方 4

8/5、12、19、26、9/2、9、16、23



アートを「見る」だけではもったいない! せっかくだから「考える」、「聞く」、「話す」、そして「書く」ことへとつながりましょう。この講座では、展覧会ツアー、アーティスト取材、感想文の執筆、意見交換などを繰り返すことで、アートの楽しみ方をよりいっそう深めたいと思います。感想文はすべて添削してお返しします。講座の終了後、フリーペーパー「HAMArt!」を制作する予定です。

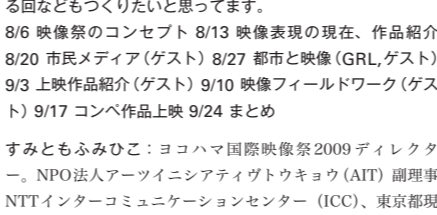
ふくずみれん：美術評論家。1975年東京生まれ。美術出版社主催第12回芸術評論で佳作受賞。『美術手帖』『artscape』『共同通信』などに寄稿する一方、東京のギャラリーマキで連続企画展「21世紀の限界芸術」のキュレーションも手掛ける。著書に『今日の限界芸術』(BankART1929)、共著に『フィールド・キャラバン計画へ』(水声社)、『ビエンナーレの現在』(青弓社)『道の手帖 鶴見俊輔』(河出書房新社)『なぜ広島の空をピカッとさせてはいけないのか』(無人島プロダクション) など。

木 thu. 19:30-21:30

## 住友文彦

映像を使った表現の現在

8/6、13、20、27、9/3、10、17、24



映像表現は分野ではなく、誰もが扱うことができるツールになりました。ヨコハマ国際映像祭2009は私たちがどう映像を作り出し、伝達し、受け止めているかをアート作品にとどまらず幅広く考えていくことをテーマにしています。見どころだけではなく、作品の紹介や、実施プロジェクトに参加する回数などもつくりたいと思っています。

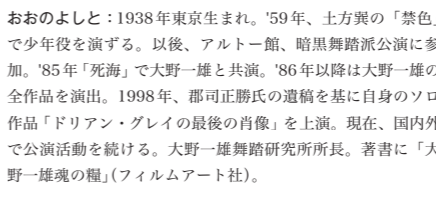
すみともふみこ：ヨコハマ国際映像祭2009ディレクター。NPO法人アーツユニシアティヴトウキョウ(AIT) 副理事。NTTインターコミュニケーションセンター (ICC)、東京都現代美術館などの学芸員として展覧会を企画、また日本の現代美術を海外へ紹介する企画にも関わる。主な共著に、「キュレーターになる!」(フィルムアート社、2009年) などがある。

金 fri. 19:30-21:30

## 大野慶人

肉体の迷宮

8/7、14、21、28、9/4、11、18、25



土方巽、大野一雄を間近で見てきた自身の経験をもとに、2人の基礎となったものを、それぞれが歩んできた道を訪ねながらお伝えしたい。立つこと、歩くこと、走ること、よじることは。そしてダンスをすることは。これらを学ぶ時間としたい。

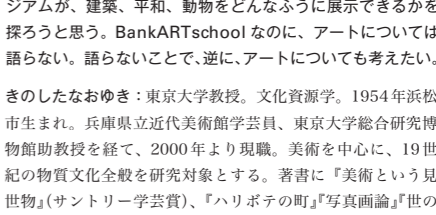
おおのよしと：1938年東京生まれ。'59年、土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。以後、アルト一館、暗黒舞踏派公演に参加。'85年「死海」で大野一雄と共演。'86年以降は大野一雄の全作品を演出。1998年、郡司正勝氏の遺稿を基に自身のソロ作品「ドリアン・グレイの最後の肖像」を上演。現在、国内外で公演活動を続ける。大野一雄舞踏研究所所長。著書に「大野一雄魂の糧」(フィルムアート社)。

土 sat.

## 木下直之

ミュージアムのある暮らし -さてどんなふうにつき合おうか-

8/1、8(2回分)、22(2回分)、9/12(2回分)、19



さまざまな人間がいるように、ミュージアムもさまざまにある。お膳立てされてから出かけて行くだけではつまらない。では、どんなふうにつき合ったらよいか。まずは相手の性格を見極めることではないかな。ミュージアムとは、何を可能にしてくれる場所なのだろうか。今年の講義では、ミュージアムが、建築、平和、動物をどんなふうに表示できるかを探ろうと思う。BankARTschoolなのに、アートについては語らない。語らないことで、逆に、アートについても考えたい。

きのしたなおゆき：東京大学教授。文化資源学。1954年浜松市生まれ。兵庫県立近代美術館学芸員、東京大学総合研究博物館助教授を経て、2000年より現職。美術を中心に、19世紀の物質文化全般を研究対象とする。著書に『美術という見世物』(サントリイ学芸賞)、『ハリボテの町』『写真画論』『世の途中から隠されていること』『わたしの城下町』(芸術選奨文部科学大臣賞) などがある。

2009 6 | 7 月

2009 8 | 9 月

2009 6 | 7 月

2009 8 | 9 月